



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

ネット社会を生きる術

先日、ネット社会をめぐって意見交流をする場に参加した。青少年の健全育成を願って催された会合である。ある方が、レストランなどで食べたいものを注文した後、しばらく待たされるのだけれど、そんなひとときをほとんどの人が、スマホや携帯の画面を見て過ごしていると話し出された。友人やカップル、家族が外食をする店の一場面。見わたすとそれぞれに端末をいじり、会話もほとんどない…そんな中、みんな笑顔で楽しそうに言葉を交わす家族がいて、それを見つけた瞬間、その方の心はあたたかくなったという。

実際問題として、家族の会話が大切だと言われるが、親子や夫婦でどれほどの会話ができているだろうか。ずっと何年も一緒に過ごしたはずなのに、相手が、今何に夢中で、どのようなことに心を砕いているかよくわかっていないのではないかな。そんな思いがわき起こってくる。

話題は、スマホや携帯などの端末とどのようにつきあい、子どもに持たせていくとよいのかということにも及んだ。「使わせない」というのは無理なことで、大人になれば仕事の打ち合わせや情報の共有、学生であれば入学手続きやレポートの提出など、さまざまなことをネットで処理しないといけない。それほどまでにネットに頼り切っている世の中になっている。子どもがひとり立ちしていくために、問題に巻き込まれずにつきあっていく知恵と技術が欠かせない。その一方で、人と人のかかわり方、つきあい方も重要になる。楽しいことはもちろん、つらく、悲しいことや腹が立つこと、悩んでいることも、相手と心を通わしながら話し込むことで、それぞれのすすむべき道が開けていくものだ。困ったときに相談できる家族や仲間がいてくれると、互いの命をいっそう輝かせることができる。

会合の締めくくりに、講師から次のようなコメントがあった。

自分にも家族がいる、三人の子がいて、長女は高校生、長男は小学5年生、次男は小学2年生。子どもたちのネットに関する知識、技術は、サイバー犯罪防止専門の業務をしている私の上をいっている。太刀打ちできない。だから、どうしているかという、これはどうやってダウンロードしたらいい？こういうときはどうしたらいい？このゲームアプリのこの場面はどうやったらクリアできるの？と教えてもらうようにしている。すると、子どもはうれしくなってたくさん話をしてくれる。自分が示そうとするのは、人生の先輩としての判断や生き様であり、時間の使い方に苦労しているといったあたりのこと…。ネット社会とどうつきあっていくか、正解ではないだろうけど、参考にしてもらいたい。

そういえば1日は24時間であり、それはだれにも平等に与えられている。その時間をどのようなことに、どれだけ費やすのか、先々のこともよく考えて賢く使っていくようにしたい。夢中になることの落とし穴に、はまらないようにしたいものだ。

校長 大林 道範